

# 楽しく行なう病院5S

## 病院5Sの実践紹介

神奈川県医療安全推進ネットワーク交流会 5Sワーキンググループ



整理  
整頓  
清潔  
清掃

しつけ(習慣)

## 目次

1. はじめに	1
2. 5Sを楽しく行うために	2
3. 一般企業の5S活動の紹介	3
4. 病院における5S活動の紹介	7
1) 横須賀市立市民病院	7
2) 日本医科大学武蔵小杉病院	9
3) 湘南東部総合病院	11
5. 病院5Sアイデア集	12
6. まとめ ～5S継続の秘訣～	19

# 1

## はじめに

神奈川医療安全推進ネットワーク交流会の「5S」ワーキンググループでは、平成20年度の活動として小冊子の作成に取り組みました。交流会メンバーが実際に行った「5S」の取り組みについて、その実際を具体的に紹介することで、これから「5S」に取り組もうと考えておられる皆さまにとって、少しでもお役に立てばと思います。

紹介する実践の中には、「5S」を“楽しみながら”行おうという工夫も掲載されています。一見地味な作業と思われがちな「整理」「整頓」「清潔」「清掃」「しつけ(習慣化)」＝「5S」を楽しく行うことで、安全な職場環境を得るだけにとどまらず、人材の有効活用や組織の活性化をも図ることが出来ます。この活動をさらに医療の現場に広げ、根付かせていきたいと考えています。

# 2

## 5Sを楽しく行うために

医療現場におけるヒューマンエラーの発生が、医療従事者の職場環境の乱雑さに大きく影響を受けている事実は周知のとおりです。これまで産業界で取り組まれてきた5Sを竹田総合病院において実践し、その効果を紹介されたのが高原昭男氏著書の『病院5Sの進め方』です。この効果を知った多くの医療安全担当者や看護管理者が、早速実践に取り組みました。そしてさまざまな困難に直面しながらも、楽しみながら実践し、成功までこぎつけることが出来た例を紹介します。

### まずはスタート

病院組織の中で5S活動を実践しようとするとき、私たち看護職者は他職種、特に医師の協力を得ることの困難さに頭を悩ませます。今回の実践者たちは、職種間の厚い壁に阻まれてエネルギーを消耗しつつ、“まずは看護職だけでも取り組んでみよう!”と、スタートを切っています。行えば必ずよい結果が得られるとわかっていることを実践出来ずに悶々としているよりは、完璧な形ではなくともまずはスタートする。これが楽しく行うための初めの一步といえるかもしれません。

### コスト

不要な物を廃棄したり、使用頻度の低いものをほかの場所へ移動することはお金をかけずにできます。しかし、見やすい表示用具やサイズの合った収納用具などを購入するには、どうしてもお金のかかることがあります。薬品の表示の付いた空き箱などの廃品利用はお金はかかりませんが、間違いの誘因となるばかりでなく時間の経過とともに箱が壊れたり汚れたりしてしまいます。廃品利用は試し期間だけにして、やはり購入すべきものは購入できる予算を確保する必要があります。さまざまなカタログから選んだり、百円ショップでお買い得品を探すのも楽しい作業です。

### 新たな能力を発見してほめる

5Sの作業過程では、ふだんの看護業務の際に発揮されている能力とは違った力が発揮されることがあります。工作の技術に長けた人、裁縫のうまい人、片付けの得意な人、5Sはさまざまな特技が発揮される格好の場です。すばらしい力を発揮している人を積極的に褒めましょう。人から認められることは、さらにその人のやる気や向上心を高めることにつながります。

### 成果をお披露目する

5Sの成果を多くの人に見てもらいましょう。実物や現場を見ることが困難ならば、パワーポイントやポスターでのプレゼンテーションも可能です。多くの人に見てもらい、投票で優秀な実践を選んで表彰したり、実践者に取り組みの苦労や工夫したことを述べてもらうと、場も盛り上がります。

# 3

## 一般企業の5Sの紹介

5Sを実践し効果を得ている企業を見学して、病院での取り組みを参考にするために、パラマウントベッド(株)の工場の見学を行いました。パラマウントベッド(株)の工場で5Sを導入するに至る経緯と、取り組みの紹介をします。

### 1) 導入の経緯

パラマウントベッド(株)の工場では、安全衛生活動の一環として、危険予知トレーニング(KTY)、ヒヤリハット報告による災害予防活動を取り入れました。

そして、「よい作業環境からしか、よい製品は生まれません」をスローガンに掲げ、2004年10月より5S活動を導入しました。「安全第一」をモットーに災害予防活動を展開した結果、労働災害は徐々に減少し、休業災害は皆無になりました。

これを病院に置き換えてみると、「よい仕事環境からしか、よい医療は提供できない」と各施設スローガンを掲げ取り組みに向けることが出来るのではないかと考えます。

### 2) 取り組み方の紹介

#### ①5S導入の計画策定と明示

「よい製品はよい作業環境からしか生まれません」をスローガンとして明示し、これを達成するために5S活動が重要でした

#### 5Sの実践手順に基づいて活動を実施している

①5S導入の計画策定	良い製品は良い作業環境からしか生まれません
②5S導入教育	管理職への研修・全職員研修(入職時・安全衛生教育)
③整理の実施	赤札作成(要らないものに札をはり思い切って捨てる)
④整頓の実施	定量化・一元化(誰にでもわかるように)
⑤清潔・清掃の実施	エリア別管理表・白線(担当マップと実施記録の掲示)
⑥しつけの定着化	他の4Sの成果の現れ(決められたことを正しく守る習慣)

#### ②5S導入教育

管理者が十分理解し、統一した行動をとることが成功へのカギであるために、まずは、管理者への研修を行いました。そして、管理者の中から1名「5S担当者」を決め、その後、全職員に研修を行いました。新入職職員には必ず安全衛生教育が行われ、統一した意識付けを行いました。

#### ③整理を実施

赤札作戦: 不要なものに赤札をつけ一箇所に一定期間集め、不要なら捨てます。「いる物」「不要な物」の区別します。

ワイガヤ: 捨てる前に皆でワイワイガヤガヤ意見を言い、



不要な物であるかを皆で決定し、廃棄するとともに、不要なものが出た原因と今後不要なものが出ないようにする対策なども話し合います。

#### ④整頓の実施

一元管理と定置化を原則に、置き方の検討を行います。誰もが同じように整理（片付け）が出来る工夫をします。置き方は白線を引き、白線に対して『平行・垂直』に置くとともに、その白線を大事に扱いました。大事に扱うとは『踏まない・線の上に物を置かない。常にきれいにする』ことを言います。



→工具を一目でわかるように収納する



→床にテープを貼り、物品の所定位置を示す

#### ⑤清潔・清掃の実施

エリア別担当者を決めて責任を明確化します。実施記録を作成し、責任者は必ずフィードバックし担当者及び職場のやる気の向上につなげます。



→エリアの担当者を明示する!

#### ⑥しつけの定着化

全員参加で、決められたことを正しく守る習慣をつけます。

### 3) 活動していく上での難しい点

5S活動を実施していく上で、ルールを作ることは容易にできます。しかし、それを実施し維持することが難しい点です。

そこで、作られたルールを守るために大切なことは「単純な発想で上手く回すツールを作ること」です。パラマウントベッド（株）では、白線を引きその白線を大事に扱い意識させることがそのひとつです。



また、「誰がいつ見ても分かりやすいルールをつくる」と、フィードバックがしやすくなり、改善への取り組みがしやすくなります。

#### 4) 医療現場に活用することで得られる効果

では、医療現場に5S活動を導入したらどのような効果が得られるでしょうか。

パラマウントベッド（株）の工場のように物を作ることを主に行っている現場では、そのものを作るための環境と、そのものを作る人を対象に5S活動の取り組みを行っています。

しかし、医療現場では取り扱っているものや情報、そして人（医療者）を対象に「整理」「整頓」「清潔」「清掃」「しつけ」を実施し、全員参加を徹底する活動を行わなくてはなりません。

5S活動は、「業務の効率向上」「ミス・事故防止」「スペースの有効利用」などを実現するための基盤整備を目的とすることが出来ます。具体的に同様な効果が得られるか考えてみます。

##### ①整理：不要な物は捨てる

	スペースの有効活用
予測できる効果	不要なものを捨てることでスペースの有効利用ができ、必要なものが必要なだけ現場における。

##### ②整頓：使いやすく配置する

	物を探す時間の無駄の削減・業務の効率化
予測できる効果	必要なものを使いやすいように配置（定数化）すると、誰もが分かりやすいように配置できる。さらに、物品が不足していることが誰が見ても分かりやすくなり、必要なものが必ず配置されているような現場になる。

##### ③清掃：掃除・点検・整備

	患者・家族の満足度向上
予測できる効果	常に掃除をし、清潔にすることで細部まで点検ができ、いつでも必要なものが使えるようになる。

##### ④清潔：3S（整理・整頓・清掃）を実施しきれいな状態を維持する

	患者・家族の満足度向上
	医療現場は清潔第一です。
予測できる効果	感染対策は患者に対してだけではなく、医療現場全体に行うことが重要です。病室・ナースステーション・病院全ての場所と人の整理・整頓・清潔を常に維持すること、すなわち病院全体の「環境整備」を実施することで、患者に気持ちよい空間を提供すると同時に、そこで仕事をする人々にとっても快適さを提供できる。気持ちよく仕事をする事が出来る。

## ⑤ 躰：教育・習慣化

### 予測できる効果

組織の活性化・職員のヒューマンエラーの削減・患者の事故防止。  
決められたことを正しく守り、実施する習慣。「基準・手順に基づく行動」「エビデンスに基づいた医療行為」の実施につなげられる。ミス・事故防止への行動化となる。

## 5) 今後医療現場でも取り入れたいこと

パラマウントベッド（株）の工場では、休憩時間が決まっていることから、休憩時間開始時には部署によっては音楽を流し職員に知らせています。音楽は人の疲労感を緩和できる効果があります。医療現場にも工夫して導入すると効果的ではないかと感じました。

以上パラマウントベッド（株）の工場での取り組みと医療現場への活用について紹介しました。

医療現場での5S活動の導入は、まだまだ歴史が浅いです。医療現場で5Sを導入することは、効果的であると考えます。

医療安全に焦点を当て考えてみると、安全管理は決まりごとを守る習慣づけが特に重要であり、5Sの視点から職場を見ることによって、さまざまな改善案を見出すことができるようになります。





# 4

## 病院における5S活動の紹介

神奈川県医療安全推進ネットワーク交流会の5Sワーキンググループメンバーが所属する3施設の取り組みを紹介します。

### 横須賀市立市民病院の活動

#### 看護助手5S活動

##### 1) ねがい

看護助手は療養環境の日常において、患者の身近にいる存在です。患者の生活環境の医療安全についての知識や技術をもつことと同時に、安全への姿勢を学ぶことは大きな意味があります。特に、医療安全の5S「整理・整頓・清潔・清掃・習慣」は、日常の中で活動する指標となります。自分達の5Sの活動をポスターにして発表することで、成果を自ら確認し自信を持って活動してほしいと考えました。

##### 2) 目標

- (1) 患者を取り巻く生活環境の5S「整理・整頓・清潔・清掃・習慣」についての課題を明確にできる
- (2) 課題への取り組みと評価をまとめて発表できる

##### 3) 方法

日時：H19年8月23日・24日 14:00～16:00 (2時間)

場所：当院講堂

対象：看護助手30名 (2グループに分けて2日間で同様な内容)

内容：

###### ①DVD鑑賞「危険予知の技法—KYTと5S」

各職場の師長にも見てもらい、助手の活動に理解と協力を求めた。

###### ②5Sについての講義

医療安全管理者より5Sの意味について講義

###### ③グループワーク

DVDや講義を聞いて、「5S」の視点で自分の部署で気になるところを話し合った

###### ④9月中旬までに各病棟で計画

「5S」の視点で自分の部署で気になるところを一カ所選び、取り組む。師長・代理主任と相談し、計画を立てる。

## ⑤9月中旬から11月まで実施・評価

模造紙1枚に前と後の写真を使い取り組みをまとめる  
看護部会議室廊下展示とする

### 結果

「5S」の視点で看護助手の日々の気づきを大切に、整備することにより、職場環境を一つでも改善でき、維持するという内容でした。助手業務に直結する内容であったため、受け入れやすかったと考えます。アンケート結果により、各部署の師長・主任の働きかけの違いで、助手自身もどう取り組めば良いのかと感づいている部署もあり、それが、結果にも表れていました。しかし、看護師や医師など他職種に認められ、「きれいになった」「使いやすくなった」「すごいね」などの言葉をかけてもらうことで、やりがい感にもつながりました。今まで、指示されたことを業務としてこなすという姿勢が多い中で、自発的な活動に持って行けたことは、助手業務の見直し、助手間のコミュニケーションにも一役かったと考えます。

H20年度、継続を目的に「看護助手5S第2弾」を実施し、ポスターだけではなく、発表会を実施しました。自分達の取り組み内容を全体に理解してもらう発表の方法や、他部署の取り組み内容を聴くことでアイデアの共有化を図ることが出来ました。

この活動は看護助手が患者の身近な存在であるということを実感し、患者の視点でボトムアップした活動に繋がりました。この活動を継続しながら、今後は、看護部全体、他部門にも広げて行くために病院全体としての取り組みが必要と考えます。



# 日本医科大学武蔵小杉病院の活動

## 1) 問題点・動機

医療安全推進ネットワークの講演会で学んだ5Sについて、以下の目的を掲げ、まずは看護部での普及を目指しました。

### 《目的》

- ①業務環境の整備を行なうことによりヒューマンエラーの発生を防ぐ。
- ②患者に対して安全で快適な療養環境を提供し、満足度の向上を図る。
- ③物品の適正な配置・管理を行なうことで、時間とお金の無駄をなくす。
- ④不要なものを整理することでスペースの有効活用を行なう。
- ⑤各部署の責任者の管理能力の向上を図る。

## 2) 実施した活動と経過

看護部の医療安全委員会のメンバーが『5S』実施計画（別紙：5S計画書見本参照）を作成し、これを看護部の全体会議（全部署の責任者参加）において方法などを説明しました。実施計画の内容は、実践者、期間、手順、注意点を記載し、改善したい場所の写真と予想完成図を添付した「5S実践企画書」のサンプルも加えました。

各部署の「5S実践企画書」の提出は、全体会議の1ヵ月後とし、特に注意点として、物品購入前に廃材を利用すること、購入に際しては、あらかじめ費用対効果を考えた予算を立て、看護部の承認を得ることを盛り込みました。その後、年度末に成果発表を予定しました。

「5S実践企画書」の内容は次の通りです。

- ①改善したい現状と問題点
- ②整理・整頓計画
- ③予想完成図
- ④清潔・清掃・しつけ計画
- ⑤必要物品
- ⑥予算

## 3) 成果

- ①不要なものを廃棄し、過大な医療材料のストック定数を見直したことにより、勤務室や処置室などの業務環境が整った。
- ②スペースの有効活用ができ、物を探す時間を短縮できるようになった。
- ③発表会を通じて院内に5Sという言葉が広く認知されるようになり、各部署内での団結力、チームワーク、コミュニケーションの向上に役立った。

別紙1.

## 5 S実践計画書 (例)

### 1) 改善したい現状と問題点 (写真の貼付と文章による説明)

【〇〇師長の机の上】

書類やファイルが雑然と置かれており、どの書類がどこにあるのかわからない。机の上に十分な作業スペースがない。



### 2) 整理・整頓計画 (作業手順と完成のイメージ図を貼付する)

① 不要な書類を整理する。

2年以上使用していない資料・書類は無条件に廃棄する

1年以上使用していない資料・書類は内容を点検し、不要と判断したら廃棄する。

1年以上使用していない資料・書類で今後使用の可能性のあるものはファイルして書庫へ移動する。

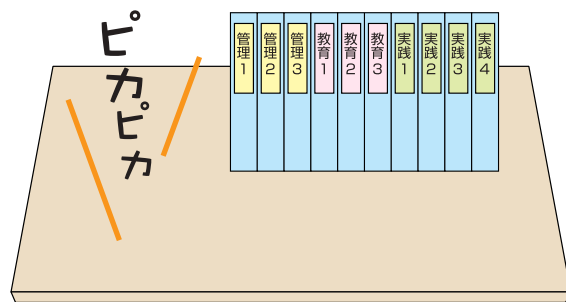
② 書類を項目ごとに分類し、ファイリングする。

③ ファイルは同一の企画のものを使用し、背表紙のラベルの色で管理・教育・実践などの分類を示す。

④ ファイルはブックエンドを用いて縦置きとし、平積みをしな

い。

⋮  
(以下省略)



完成イメージ

### 3) 清潔・清掃・しつけ計画

毎月第1月曜日の夕方業務終了後に不要な書類の整理を行う

### 4) 必要物品と予算

ファイル10冊                    100円×10冊=1000円

ブックエンド2                500円×2個=1000円

---

計    2000円

## 湘南東部総合病院の活動

2007年、入院患者から「病室の清掃がきちんとされていない」という指摘を受け、組織的に「5S活動」を導入する事が決定されて、導入にいたりました。

### 1) 目的

院内外で美化活動を進めることにより、患者、職員の双方にとって快適な空間を創造する

### 2) 目標

「患者と職員に最適で快適なやすらぎの病院」を目指す

### 3) ねらい

- ①美化を清掃委託会社に任せきりにするのではなく、各職場で出来る事は実行する
- ②「自分たちの病院」という意識を持つ

### 4) 方法

- ①5Sを組織的に導入することを、院長は宣言する。(統括責任者は事務部長)
- ②病院の全ての部署にエリア担当責任者を決定
- ③各部署の5Sチェックシートを作成
- ④清掃委託会社の業務範囲を明確に明示、それ以外の所は、エリア管理部署にて担当する
- ⑤責任者は、チェックシートに基づきチェックする
- ⑥月1回チェックシートを総務課に提出
- ⑦委員会の結成と定例化(2008年11月より第1火曜日)  
内容は、各部署の意見交換、提案事項の検討、活動状況報告 など
- ⑧検証方法は、各フロアの責任者を決定し各責任者が検証する

### 5) 活動経緯

年間計画として、6S(「作法」を追加)の実施項目を幹部で決定し実行している

- 4月・10月 整理
- 5月・11月 整頓
- 6月・12月 清掃
- 7月・ 1月 清潔
- 8月・ 2月 しつけ
- 9月・ 3月 作法

これらの実施項目をもとに各部署で目標を決定し、計画立案、活動しています。



# 5

## 病院5Sアイデア集

輸液ポンプの乱雑なコードが…



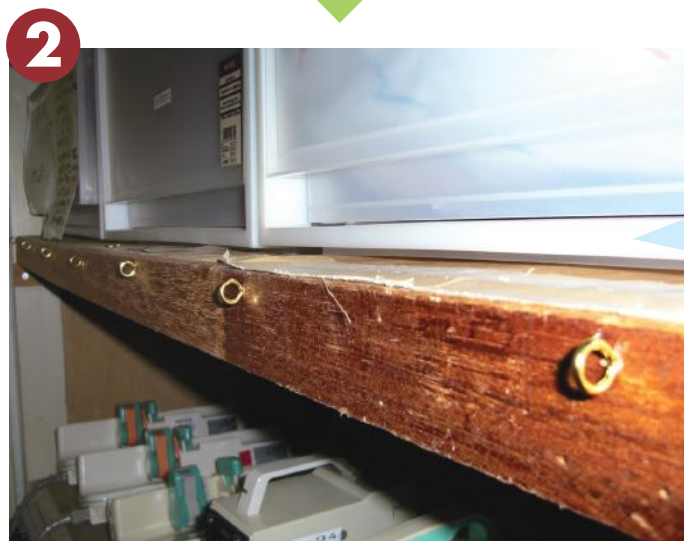
こんなにスッキリ





コードが乱雑にぶら下がり、見た目にも汚く、この状態をどうにかしたい。でもコードの差込口は利用したい・・・。

(発案看護助手)



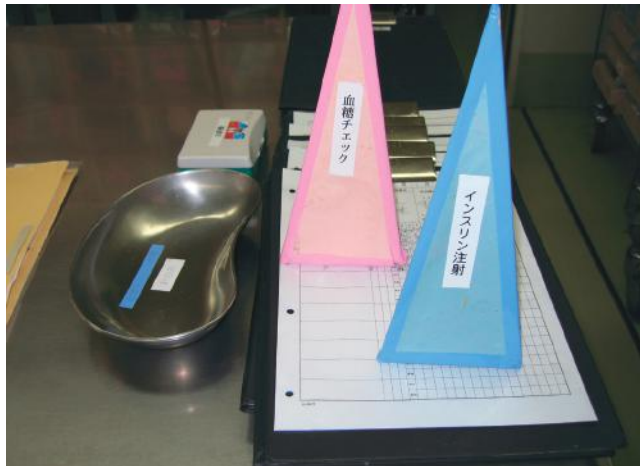
まず、看護助手がイメージ図を作成し、院内のスタッフへ作成を依頼。その後、スタッフが病棟へ来棟し、直接棚の寸法を測り、看護助手と相談しながら作成に取り掛かった。



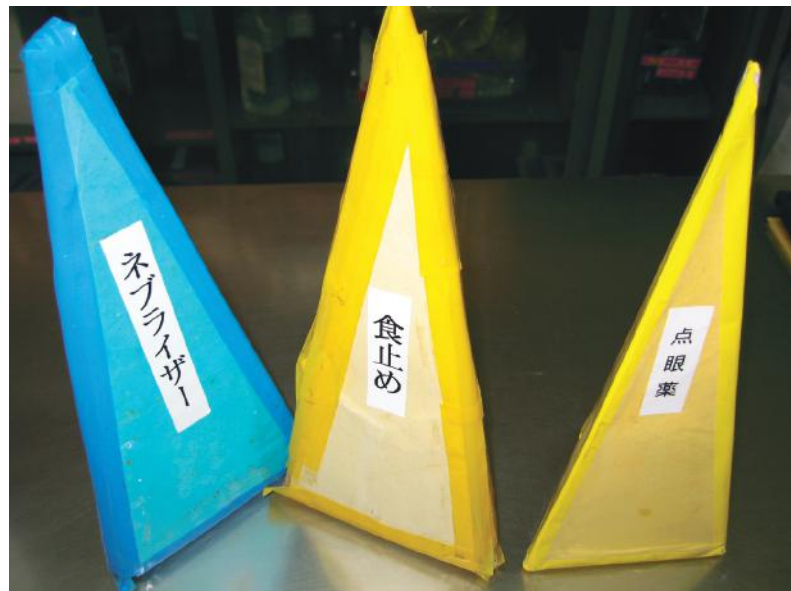
スタッフに依頼して2～3日で作品が完成。ただ取り付けるだけでは布が弛むため、棚にフックを取り付け、フックにカーテンコードを通すことにした。作品の裏に穴かがりを作り、布の中にカーテンコードを通すことで、見た目にも綺麗で、かつ安定性を保つ事ができる。



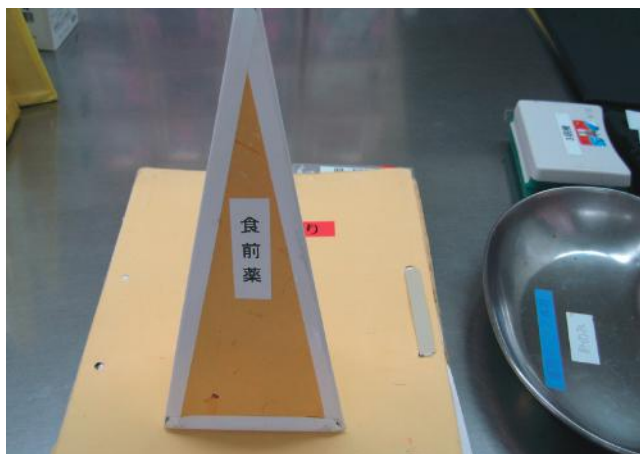
血糖チェックが全て済んだら三角錐を倒しましょう



必要時使用



食前薬の予薬が済んだら三角錐を倒しましょう



与薬後、  
相手チームのカート内を確認し、サインをいれましょう



カートは定位置に戻しましょう



検温に使用するワゴンは定位置に戻しましょう



移動可能にしました



一つひとつ枠内に片付けるように



定位置に





## 発表会で盛り上がりましょう



5Sに取り組んだグループごとに、成果を発表します。発表はポスターやパワーポイントを用いて行います。優秀な取り組みにはアイデア賞・トップ賞等、賞を決めて称えましょう。賞状や賞金・商品などの報償があればより盛り上がることでしょう。更に成功事例大会など、院外への発表の機会も積極的に活用してはいかがでしょうか？

## これら以外にもいろいろなアイデアがあります

- 見学を受け入れている工場はどこもきれいに整理・整頓されている事にお気づきですか？ “見られる” “見られている” “注目されている” という意識がモチベーションをあげています。病院においてもこの見られている意識を活用しましょう。外部からの見学はもちろん、他部署の方から見てもらうだけでも効果があると思います。また患者さんにも見てもらえるものを選んで、患者さんの見えるところに展示するというアイデアはいかがでしょうか？。
- マジックフレーズを活用しましょう。「片付けなさい」→「片付けてくれて有難う」、「きれいに使いなさい」→「きれいに使ってくれて有難う」
- 効果をフィードバックしましょう。“書類の取り間違えが減った” “処置の準備時間が短くなった” “欠品が減った” など、5Sの成果を明らかにして実践者にフィードバックしましょう。5Sをやり遂げた達成感に加え、周囲に貢献できた喜びが更なる取り組みに結びついていくことでしょう。

# 6

## まとめ

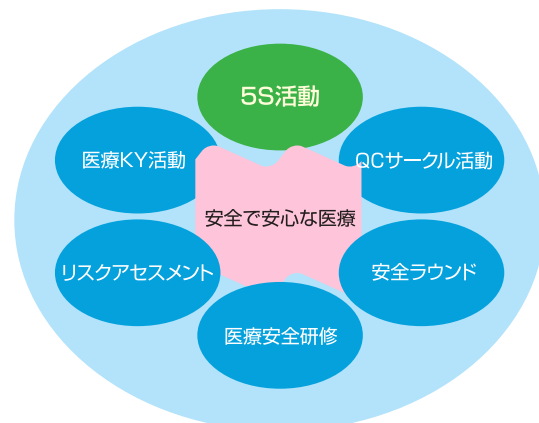
組織全体で5Sに取り組むことは、医療安全のために重要です。トップダウンで開始しても、現場が必要を理解し意欲的に活動しなければ、継続することは困難です。

実践している企業の5Sを医療現場で取り組む必要性を感じたメンバーが、見学したり、文献を参考に実践した結果をまとめてみました。

すでに取り組んでいる施設の5Sについては、短期的（1～2年）に成果を出すことはできても、長期的に継続、定着するためにはエネルギーを要するといわれています。また、病院の職員全体が5Sレベルに満足すると、その時点から5Sのレベルは後退するとも言われています。そのためには、トップや推進委員会等の姿勢、推進力が不可欠で、現状に満足せず常に進化・進歩させようとする粘り強い推進者を育成することが継続する秘訣ではないかと考えます。

医療現場は企業と違って、5Sを実行するには数々の問題点があります。しかし、全ての人の安全・安心のためにも医療現場こそが、5Sを実行することが大事ではないかと考えます。今回取り組んだ施設の現時点での成果は確認できていますが、今後もモニタリングを継続し、定着・習慣化・継続するためのキーワードを探ってゆきたいと考えています。

工場見学にご協力して下さった、パラマウントベッド（株）の工場関係者の皆様、関連する施設の皆様、神奈川県看護協会、交流会の皆様にご深く感謝いたします。



医療安全を取り巻く様々な活動

## 参考文献

- 1) 高原昭男:病院5Sの進め方、日本プラントメンテナンス協会、2005.
- 2) 坂本すが:5S活動と医療安全、p104～105、医療安全no.5、2005.
- 3) 戸根 修:武蔵野赤十字病院5Sへの終わりなき挑戦 第1回脳神経外科外来、p32～35、医療安全no.8、2006.
- 4) 廣貫伸紀:武蔵野赤十字病院5Sへの終わりなき挑戦 第2回臨床工学課、p30～33、医療安全no.9、2006.
- 5) 浦原 孝:武蔵野赤十字病院5Sへの終わりなき挑戦 第3回NICU、p31～34、医療安全no.10、2006.
- 6) 姫野佳郎:武蔵野赤十字病院5Sへの終わりなき挑戦 第4回放射線科、p54～59、医療安全no.11、2007.
- 7) 高原昭男:5Sの定着 社団法人 日本プラントメンテナンス協会
- 8) 河野龍太郎:医療におけるヒューマンエラー ーなぜ間違える どう防ぐー 医学書院
- 9) スティーブン・C・ランディン他:相原真理子訳 フィッシュ実践編 早川書房
- 10) 大田肇:承認欲求 東洋経済新報社



## 神奈川県医療安全推進ネットワーク交流会：5Sワーキンググループ

---

5S:リーダー	内村洋子	日本医科大学武蔵小杉病院
サブリーダー	前田みゆき	大口東総合病院
補佐	戸田由美子	東名厚木病院
メンバー	浅輪桂子	湘南東部総合病院
	阿部路子	横須賀市立市民病院
	小見山かおり	日本医科大学武蔵小杉病院
	瀧本由美子	横浜通信病院
	土屋京子	湯河原厚生年金病院
	埴典子	医療法人社団公仁会 大和成和病院
	中村輝子	相模台病院
	武藤朋子	昭和大学横浜市北部病院
	津島春美	茅ヶ崎徳洲会総合病院

---

表紙デザイン:内村沙也佳 (トキワ松学園高等学校3年)

### (社) 神奈川県看護協会

発行者 会長：平澤敏子

発行日 平成21年1月

〒231-0037 神奈川県横浜市中区富士見町3-1

TEL: 045-263-2901 FAX: 045-263-2905

<事務局>

堀 喜久子 (常務理事)

安井はるみ (医療安全対策課)

村上 聡子 (医療安全対策課)

